

## 鳥取市議会予算審査特別委員会文教経済分科会会議録

会議年月日	令和5年3月16日（木曜日）		
開 会	午前10時58分	閉 会	午後1時25分
場 所	市役所本庁舎7階 第2委員会室		
出席分科員 (8名)	分科会長 浅野 博文 副分科会長 金田 靖典 分科員 中山 明保 加嶋 辰史 米村 京子 吉野 恭介 石田憲太郎 岡田 信俊		
欠席分科員	なし		
分科員外議員	なし		
事務局職員	議事係主任 橋本 圭司 調査係主事 福田 佳菜		
出席説明員	<b>【教育委員会】</b> 教 育 長 尾室 高志 教育委員会事務局副教育長 岸本 吉弘 次長兼教育総務課長 横尾 賢二 教育総務課課長補佐 小清水晃子 教育総務課学校施設係長 河上 大輔 次長兼学校教育課長 安本 雅紀 学校教育課参事 浅見 康陽 学校教育課課長補佐 西尾 靖子 総合教育センター所長 安田 直人 総合教育センター所長補佐 岡田 康子 学校保健給食課長 山根ちはる 学校保健給食課課長補佐 谷村 彰彦 学校保健給食課学校給食係長 田中 崇仁 文化財課長 佐々木敏彦 文化財課課長補佐 佐々木孝文 生涯学習・スポーツ課長 須崎ひとみ 生涯学習・スポーツ課課長補佐 小谷 昇一 生涯学習・スポーツ課施設係長 岸本 和也 生涯学習・スポーツ課主査兼生涯学習係長 川上 哲実 中央図書館長 長本 次郎 中央図書館副館長 大角 正道		
傍 聴 者	4人		
会議に付した事件	別紙のとおり		

予算審査特別委員会文教経済分科会に切換え 午前10時58分 開会

◆浅野博文分科会長 予算審査特別委員会文教経済分科会を開会します。

### 【教育委員会】

議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆浅野博文分科会長 議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。そうしましたら事業別概要書は225ページの上段、学校教育課所管、部活動推進事業費についてお尋ねをします。先日2月15日でしたかね、第一次提言が部活動改革委員会から提出されて目を通させていただいて、こちらのほう、今回（4）で地域移行コーディネーターを配置するというところなんですけど、このコーディネーターになっていただく方の規定というんですかね。どういった方で、どういった方が望ましいというような規定書というのは作る予定があるのかどうかお尋ねします。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。各校に配置の部活動コーディネーターということですので、これにつきましては規定を作る予定でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。規定を作られるのは教育委員会なのか、部活動改革委員会なのかお尋ねいたします。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。規定のほうは教育委員会のほうでつくらせていただきます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。そうしましたら、この指導者人材バンクの考え方についてもお尋ねをいたします。希望する教員も登録というような形があるんですけども、教員の方に限らず、鳥取市職員の方というのは、もう全国大会経験者の方もおられて、素晴らしい人材の宝庫なのかなとは思いますが、この教員の方が登録をされた場合の、いつ担当ができるのかなと、お仕事の時間外にどうしてもなるのか、お仕事の時間の中であっても切り替えてその時間は指導に当たれるのか、その点考え方を教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。教職員が地域移行した部活動にどのように関わっていくかということですが、勤務時間外での関わりになります。これから制度を整えていきますけれども、兼職兼業という形で関わるようになってくるというふうに思いますので、土日か平日でいきますと勤務時間外というところでの指導の関わり方を想定しております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。最後の発言します。意見としてなんですけども、平日と休日で指導者が変わることが起こり得るのかなと、尾室教育長や須崎課長まで、私がスポーツ経験がないので言うのもおこがましいんですけども、技術面であれば指導される方が変わったときに、ある程度方向性を統一させておかないと、困るのはサービスと言いは申し訳ないですけど、

受け手の生徒さんになってくるのかなど。この事業の傾向及び背景の中で生徒・保護者のニーズが多様化して十分に応えることは困難ということは書いてありまして、それから最初からどの程度までするのかということを決めて、その共有を図って行って、それが守れる方が人材バンクに登録したり、コーディネーターの規定に従っていかないと、教えられる側は、本当にこの世界でもイップスというような言葉があるとは思いますが、本来の自分が反復してきたことができなくなってしまったりということ、すごく大事なことだと思うんです。本当、今年初めて全国のお子さんの自殺が500人を超えたというような形で、お子さんは本当昭和、平成の頃に比べてデリケートになってきているんだろうなということは、おもんばかりはできますので、その点も厳しいというんですかね、厳格なコーディネーターの規定でもって、そしてなおかつ、技術指導においても10年後の鳥取の国体に向けて成果が上がるように生徒が夢を持って、高い目標を持って当たれるような制度にしていただきたいなということで意見とさせていただきます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 関連ということで、勤務時間外ということなので、教員の時間外労働ということには当たらないという理解をさせていただきました。練習場所というのは、じゃあ、平日と休日というようなのはもうそのコーディネーターさんというか、指導者に任されるのか、何か場所が違えば何かそういったところの費用的な支援も事業の中に入るのかというあたりを少し教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。基本的には部活動の地域移行ということですので、今、部活動をしている学校施設であるとか、近隣の地域内の施設というところを活用するというのが基本だというふうに思っております。ただ、広域でチームを編成するようなことも想定されますので、そうなったときには、子供たちの移動可能な活動場所というものを確保というのが課題だというふうに思っておりますので、その辺りも進めながら検討していく必要があるというふうに思っております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 はい。ありがとうございます。あまり予算とは関係ない話になるかも分かりませんが、地域移行がなかなか上手にできないよという機関のところの考えですけども、何かその拠点校みたいなものを決めてこの学校はこの部活みたいなことでされるのか、本当に合同で何校も集まってやりましょうみたいな話にされるのか、そういったことをこの事業費の中で決めていかれるという理解でいいのでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。各17中学校区の進捗状況を予算に相当するような取組の中で一律に進めていくということではございません。各中学校区で、まずはそれぞれがどのように部活の地域移行をしていくのかというところの議論から始めるということがスタートでございますので、準備が整い次第できるところからスタートしている校区もあるというふうに思いますし、それから競技団体によっては一斉にそれを考えるというこ

とも今後想定されますので、それぞれの学校、競技団体、種目等の進捗状況も加味しながら学校教育課に統括コーディネーターを配置しますので、うまくつなぎながら、情報収集しながら進めていきたいなというふうに思っているところでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。参考までに教えてください。この統括コーディネーターさんとか、地域のこのコーディネーターさんをいつ頃までに決められ、配置されるというような考えですか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。まず、学校教育課、教育委員会内に配置をします統括コーディネーターでございますが、この議会で予算が成立したら正式に決定ということではございますが、内諾は得ております。ただ、誰でもできる職種ではありませんので今、想定している者は教員経験者、それから中学校体育連盟とのパイプがしっかりある方、競技指導等にも精通をした方というようなことで、スポーツ面でのコーディネーターを主にやっていただくというふうに思っていますが、課題となっているのは吹奏楽とか文化活動をどうつないでいくかということもありますので、統括コーディネーターさんにそこも担っていただくとは思っていますが、これをどうしていくのかというのはこれからの課題だというふうに思っているところでございます。

それから各中学校区に配置しますコーディネーターですが、これは来年度、令和5年度中に少しずつ統括コーディネーターが学校を回りまして説明をする中で、年度内に人選をし、会議をし、というところは描いているところです。もう既に人選をしている校区もございますのでこのあたり少し差が出るかもしれませんが、大きな差が市内で生じないように進めていきたいというふうに思っているところでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。そもそも統括コーディネーターが決まっていなければ、この計画もなかなか進まないだろうなと思ってたんですが、内諾があるということで安心しました。よろしくお願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほか。はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。関連してなんですけども、部活推進、ここまでくるのに本当にやっと来たかって感じですよ、正直なところ。今までずっと言われてきているのになかなかこうできなかった部分というのは、1つのもう第一歩だと思っています。それともう1つ聞きたかったのが、これあくまでも中学校の義務教育の中ですという理解でよろしいのでしょうか。小学校は入らないということで。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。現在、小学校につきましては全て社会スポーツ活動になっております。一部市町によって異なりますけれども、陸上と水泳に限って学校教育という形でスポーツ指導はしておりますが、ほぼ小学校については社会スポーツ活動になっております。学校教育活動とは切り離しております。今回の部活動地域移行は中

学生に限っての取組であります。働き方改革から進めている取組でございますので、行く行くは学校教育から切り離すような形で社会教育活動としてこのスポーツ活動、文化活動等担うようなスキームを組んでいく必要があるのではないかなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 ありがとうございます。やっぱり小学校はもう社会のほう、そっちのほうに移行しているみたいなんですけども、まだ陸上とか水泳、あれに関してはやっぱり学校のほうが中心になってやってるというふうに理解すればよろしいですか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。小学校におきましてはそのような流れでございますが、昨今の熱中症対策とか、コロナ禍の中で県の大会等も中止とか削減というような流れがございますので、少しずつ水泳、陸上の指導についても小学校においては削減されているような流れはございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 ありがとうございます。やはりこの部活動推進事業、これもっとどんどん進めていかなくちゃいけないんじゃないかなと、正直な私の意見でございます。ありがとうございます。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますでしょうか。はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 金田です。お世話になります。関連なんですけども、戦前から続くような部活動ですから、そこをここで働き方改革を前面に出した上でのこういう改革でなかなか大変だろうと思います。それから、今までずっと歴史を積んできた中体連であるとかね、そういう形での組織もしっかりあるわけで、そこをどう役割分担してやっていくのかちゅうのが、これから大変だろうと思いますけども、あんまり兼職兼業、許可制だみたいなのでやるとずるずるずるずるなってきますので、改革の中で3年を一応めどにされるということでしたんでね、ぜひともそこをきちっとケツを決めた上でやられれば、また。それで、特に僕、青谷で郡部ですからもう学校自体が部活がなかなか成立してないです。団体競技ができない状態になっているんです。そうすると学校をまたいでもう、地域のスポーツの担当みたいな今までの体育指導員の方なんやら、経験者なんか頑張ってるから、その辺では全く目がないうけではないと思いますので、その辺ではあと決めた以上やるのかどうなのかということだと思います。

それで237ページに地域学校協働活動推進事業費というのが、ここにまた同じように地域ボランティアコーディネーターという形でのスポーツの形が出てくるんです。ここの関連というのを少し教えていただければと思いますけども。

◆浅野博文分科会長 はい、須崎課長。

○須崎ひとみ生涯学習・スポーツ課長 237ページの地域学校協働活動推進事業費のほうでございますか。こちらでいいですか。242ページのモデル事業のほうではなくてでしょうか。（「3つ一緒でいい」と呼ぶ者あり）はい。生涯学習・スポーツ課須崎でございます。地域学校協働活

動推進事業費ですけれども、これは学校の運営協議会というのはコミュニティスクールというのをつくっておられますけれども、それと地域学校協働活動といいまして地域のほうの各種団体ですね、スポーツであるとか、福祉の活動であるとかいろんな団体があると思うんですけれども、そこの情報共有であるとか、目標ですね、地域の目標であるとか、学校の目標であるとか、生徒をどういうふうに育てたいとかというようなことを情報共有をしまして、そこをつなぐ役割のコーディネーターというのを配置をしております、学校のそういった目標に基づいて子供たちと一緒に育てていくというような事業になっております。それで現在ですね、こちらのほう14地区モデル地区がございまして、コーディネーターのほう配置をしているところでございます。令和5年度には2地区ですね、増やす予定にしておるところでございます。

それから242ページのほうが先ほど言いました地域運営型部活動推進モデル事業ということで先ほどに関連してくるものですが、こちらのほうは令和3年度から、この部活動の地域移行が進んでくるということでモデル事業ということで鹿野学園をモデル校としまして実際に地域のクラブですね、総合型地域スポーツクラブの鹿の助スポーツクラブというのが部活動の運営のほうにモデル校ということで入らせていただいております。現在、令和4年度に陸上部のほうとそれから男子バレーボール部のほうに地域からの指導者を陸上部には1人、それから男子バレーボール部には2人ということで学校の部活動に出るような体制を今、整えているところです。

それで、その中で問題点等見えてきたものというのが、学校の移行を踏まえた地域移行というのがその学校との調整であるとか、それから指導者の発掘であるとかということがかなかなか難しいというような課題等も出てきております。それが今回の提言の各学校への部活の改革協議会設置であるとか、それから連絡調整役を担うコーディネーターの配置であるとか、それからその指導者人材バンクの設置であるとか、そういう提言の内容のほうにつながってきたものでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。242ページのスポーツクラブ鹿の助が鹿野学園だけなんですか。

◆浅野博文分科会長 はい、須崎課長。

○須崎ひとみ生涯学習・スポーツ課長 生涯学習・スポーツ課須崎でございます。現在のところ鹿野学園だけですけれども、令和5年度は西部地域のエリアに広げていけるといいなということで、またコーディネーターさんなんかの状況も把握しながらということにはなりますけれども、そういった方向性で令和5年度はやっていけたらというふうに考えております。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 西部地区というのは気高郡のこと、それとも千代川以西のことですか。

◆浅野博文分科会長 はい、須崎課長。

○須崎ひとみ生涯学習・スポーツ課長 旧気高郡のことです。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 鹿の助は御存じのとおり、3町の体育館のほうのトレセンを指定管理で

受けとられる団体ですので、地元からのそういう経験者が集まってクラブつくっておられますので、その辺では3町それぞれでそれぞれの持ち味が、卓球だったりバレーだったりいろいろあるわけですから、そこら辺をしっかりとリンクしてそこを受皿になれば、先ほどの225ページの部活動のその受皿ともリンクしていけば、もっともっと活動がスムーズになっていくんだらうなと思いますね。分かりました。ありがとうございました。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。石田委員。

◆石田憲太郎分科員 事業別概要222ページの下段ですね、学校働き方改革推進事業費ですけども、事業内容、デジタル採点システムの活用ということで事業の内容となっております。これについては今年度から始まっているんですかね、下のほうに書いてあります、令和4年度からということで。実際、既に始まっているので大体分かると思うんですけども、来年度これを活用することによってその働き方の改革にどこまで資するものになっていくのか、結果として働き方改革にどれほどつながっていくものと想定されとるのか、そのあたりを聞かせてください。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。働き方改革推進事業費の中のデジタル採点システムの活用ということですが、本年度中学校に導入をしております。導入前に各学校で任意で導入をしてきている学校もございましたので、その導入の経緯も検証しながら市内に入れてきた制度でございます。自動採点ができるシステムですので、教員はかなり採点業務に関わる時間が削減になっております。これにつきましては学校現場からはかなり働き方改革につながっているという評価をいただいておりますので、当初は小学校にもというこの検討はしたのですが、小学校はテストの回数がかかなり多いですので、単元別のテストとかやっていますので、中学校については期末とか中間とか時期に応じたテストですので、中学校のほうでしっかりと活用をまず進めていきたいなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 分かりました。中学校から義務教育学校の後期過程ということで書いてありますもので、これ、このシステム小学校のテストとかには使えないのかなとか思ったりしたんですけども、それ使えるのは使えるんですね。逆にそっちの方が回数多いんだったらそっちに導入したほうがよっぽど効果が出ると思うんですけども、そのあたりって無理なんですか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。実は自動採点をしたものがマル・バツがついてデータになります。それを学校は、実はプリントアウトをして子供に返すという作業をしておりますので、手元に自動採点したものが最終的には返ってくるということになっております。これ小学校で導入しますと単元ごとに印刷をして返さないといけないということになりますので、場合によってその印刷製本費といえますか、そちらのほうが無大にかかってしまうということもありますし、小学校についてはやはり添削をしてしっかりと子供のつまずきを把握してやるということを発達段階として大事にしておりますので、今回については中学

校のほうで導入をしていきたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 分かりました。おっしゃられるように、発達段階のそのあたりを見極めていくところにも必要だと、今、理解はさせていただきましたが、働き方のその時間短縮から言ったら、業務の多いほうに活用したほうが短縮できるのかなって単純にちょっと思いましたものでちょっと聞かせていただきました。ちょっといいですか、続けて。

◆浅野博文分科会長 関連して、じゃあ、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 石田委員が今尋ねられた自動採点システムの削減というのは何時間がどれぐらいになるよって、時間的なものを教えていただけませんか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。使っております業者の試算、これは百問繚乱というシステムになりますけども、業者が試算している数字はございますが、ちょっと今、手元にはございません。それから現に市内の中学校で活用して、どれぐらい時間が削減されたかというデータも今はちょっと持ち合わせておりませんので、そういったものが明らかになりましたら、また御紹介をさせていただけたらというふうに思います。申し訳ございません。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ごめんなさい。後学のために教えてください。これ仕掛けが知りたいんですよ。プリントに回答を書くでしょ、要はマークシートではないわけでしょう。記述もあれば選択もあって、当然記述もあって、それを業者に送る、学校の中で何かソフトか何かを通すとマル・バツがついて返ってくる。ちょっとシステム、やり方を教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。これは全てのテスト、記述式のテストをプリンターで読み込みます。スキャンしていきます。スキャンしていきますと電子データになりまして、テストの解答欄の枠というのが設定されておりまして、そこをAIで読み取ってマル・バツをつけていくというシステムで、かなり賢いシステムでございまして、業者に送って採点をしてもらうというのではなくて、自校ですぐにできるシステムでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 記述も読み込んでそれが正解かどうかも判定できるんですか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。基本的には文章とか、記述も採点はできますが、今聞いている難点としましては、数学の作図という問題がありまして、コンパスの軌跡等が薄くなっている部分はなかなか読み込めないもので、これについては教員が一つ一つ目視をしながら採点をつけていくというところが、まだ課題ではございますが、大体テストの答案用紙は読み込めます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 じゃあ、すみません。次に232ページ上段の重要文化財仁風閣保存整備事業なんですけども、スケジュールは、今年度は実施設計、耐震補強設計ということで6年から9年まで4年間かけての修復工事になるかと思いますが、例えば4年間の長期にわたる修理でああいう事業なんですけども、需要があるかどうかちょっと分かりませんが、例えば姫路城を改修するとき一般公開とか、そういうことをさせましたけども、例えばこの4年間仁風閣の修繕とか、そういう修繕してる状況を見てもらうとか、そういうような形の機会を提供するとか、そういうような考え方があるのか、せつかくこの4年間全く何か封鎖するというよりは、その改修風景でも一般でも見れるような、そういう機会の提供というようなことを考えておられるのかおられないのか、そういうことがもし可能であれば私はそういうことがあってもいいのかなというふうに思ったりしております。

それ1点と233ページの上段、埋蔵文化財調査の、これ新規事業になっておりますけども、これがどういう分布調査の実施とかいうところで、何か新しい調査方法なのか、ちょっとこれが聞かせていただけたらなと、2点お願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、佐々木課長。

○佐々木敏彦文化財課長 文化財課佐々木でございます。石田委員から2点御質問をいただきました。まずは重要文化財仁風閣保存整備事業費のことでございまして、4年間の修理の間の考え方でございます。仁風閣、工事に入りますと基本的には建物はもちろん入れませんが、建物の裏に市の指定の庭園もございまして、さらに茶室であります建物のほうもございまして。こちらのほうは引き続き利用していただけますので、全く閉鎖ということではないんですが、委員さんの言われた改修の状況ですね、それを見ていただくというようなことも、もちろん工事の日程とか、見ていただく方の安全とか、そういったものもいろいろ考えながら見学をしていただけるような機会を作っていけたらなというふうには思っております。まだちょっと実現できるかどうか分かりませんが、一応考えは持っております。

それと埋蔵文化財調査費のほうの新規事業の分でございまして、こちらのほうは、赤色立体地図というのを導入させていただくというふうにご考えてございまして、これは航空レーザーで上空からレーザー光を当てて地形の起伏を測るというものでございまして、一般的な25,000分の1の地図ですと、等高線の間隔が大体10メートルぐらいで、地図としては全く古墳の状況とか、城郭の状況は分かりませんが、このレーザー光線を当てますと、等高線ではないですが、等高線に換算すると数十センチ単位ぐらいの間隔で高低が分かるというようになりまして、古墳の盛り上がりでありますとか、城郭と言いますか、お城の中世城郭の形が分かるというようなものでございまして。さらにいいところは、山とか木があって、写真では判定できないようなものもそれを透過して起伏が分かるというようなものでございまして、これの導入に440万円ということで予算をさしていただいております。今回、令和5年度につきましては、久松山の周辺を調査させていただくというようなことで考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 ありがとうございます。仁風閣のほうについては、検討のほう進めていただけたらなというふうにご期待をしております。ちょっと最後に1点だけいいで

すか。

◆浅野博文分科会長 関連して、はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 仁風閣ですけれども、今、石田委員が工事の途中で言われたですけれども、見えなくても動画を撮るだとか、何かVTRを撮って工事後には何かみんなに見てもらおうとか、結構複雑な内容の工事もあるのではないかなって、ドキュメンタリー的に何か撮られて、後で皆で見るといふようなことも併せて考えていただければと思います。意見です。

◆浅野博文分科会長 はい、佐々木課長。

○佐々木敏彦文化財課長 文化財課佐々木でございます。令和6年度からということで、かなり長期な工事になりますので、それぞれ改修の状況が、進捗状況などが分かるような情報発信の仕方を考えていけたらというふうに思っています。ありがとうございました。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 最後もう一遍言っとこうかな。それこそ大阪万博がちょうど期間中になりますんでね、その辺りの意味合いも含めております。経済観光部等とも連携を取りながら考えていただけたらと思います。

最後、すみません。1点、244ページ下段の図書購入費でございます。それこそ今電子書籍というものが増えてきたと思います。今回前年度予算3,600万余り、本年度が4,000万余りということになっております。多少増えておりますが、この電子書籍、これからも購入冊数なり云々、増えていこうかというふうに思うんですけども、このあたりの予算的なことっていうのは今までの紙ベースのものと、年間の購入予算と大きく増えていくのか、減っていくのか、そのあたりをちょっとお聞きしたいのと、今回の400万弱の予算金額が増えている部分というのは、デジタルの関係のことで増えているのかどうか、そのあたりを教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、長本館長。

○長本次郎中央図書館長 中央図書館長本でございます。石田委員さんのほうからの御質問です。このたびの図書購入費のほうですけれども、前までは紙の本を購入する費用ということでしたけども、このたびはここに電子書籍のほうも購入する予算を組ませていただいております。内容としましては1,000タイトルを購入する費用にあてているようになっております。前回まで500タイトルでしたけど、今回来年度は1,000タイトルを購入できるように予算をつけていただいております。特に児童生徒のGIGAスクールに沿うような、そういったコンテンツを主にそろえさせていただければと思っていますし、あとは読書バリアフリー計画に基づいておりますので、読み上げ機能を持っているものとかを主に、コンテンツをそろえさせていただきながら、進めていければと思っています。

ここの予算につきましては、今後も紙ベースのものは残しつつ、さらにこの新しい図書館サービスということでの電子書籍のほうも充実させていただければありがたいなと思っていますので、ちょっとずつ増やすことができたというふうに考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。そのほかございますでしょうか。はい、岡田委員。

◆岡田信俊分科員 事業別概要書222ページ上段です。学校安全推進事業費ということでありまして、これ事業の内容を読ませていただきますと、学校安全推進体制の強化充実を図るとあり

ますが、私、ちょっと認識不足なのかもしれませんけど、具体的にどういうことを取り組まれるのかお尋ねします。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。この学校安全推進事業費につきましてですが、国の事業を再委託して指定をさせていただいて、地域の防災対策、学校を拠点として高めていくという事業でございます。本年度は用瀬小学校を拠点としまして、千代南中学校校区をモデル地域として実践をしました。これは、なぜその地域かといいますと、市の総合防災訓練を実地する地域を選定して指定をしているということでございまして、令和5年度につきましては市の防災訓練の地域の一つである国府東小学校、これを拠点校としまして、国府中学校校区をモデル地域として進めていくということでございます。主には学校における避難訓練とか、防災とか、津波は国府東には想定しないというふうに思いますけれども、そういったものの計画等の整備、それから教職員の資質向上、それから地域との連携というあたりを総合的に進めていく事業でございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、岡田委員。

◆岡田信俊分科員 分かりました。参考になるかどうか分かりませんが、言ってみましょうか。私が視察に釜石市に視察に行かせていただいたときに、釜石市は3.11のときに登校して、ちょっと間違いだったらお許しください。登校しとる児童生徒の被害者がゼロだったということで、釜石の奇跡と当時言われたということの説明を受けたんですけども、担当者が奇跡ではないですと、あれだけ訓練してきたんですからという言葉が強烈に残っておりまして、やっぱりそういうことがあっての、だからこそ奇跡が起こったし、言い方は失礼かもしれませんが、訓練が大切だというふうに思いましたので進めてください。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、米村委員。

◆米村京子分科員 米村でございます。ページ数で言いますと、概要書は217ページの下段、放課後児童対策についてなんですけども、この中で何を言いたかったかで、どんどんどんどん放課後児童クラブに通う生徒さん増えてきてると思うんですよ。その辺のことでまたどんどん、またそういう意味でのいろんな形での予算も増えてくるんじゃないかなと思うんですけども、今現実、4年度までは76クラブの3,051人ということなんですけども、予定としては、これ以上になると思うんですけど、その辺のことをどういうふうに把握していらっしゃるかお願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。本年度の状況につきましては、米村委員さんがおっしゃったとおりでございますが、来年度の想定ではクラブ数としては増減なく76クラブを想定しております。ただ、利用者のほうは増えておりまして、今のところ3,157人の登録を想定しておりますので、比較しますと100人程度増えているという状況でございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 それこそ100人どんどんまた増えているということなんですけども、実際間

題この放課後児童クラブでの安全対策はどうなっているのかっていうことがちょっと知りたいということで、お願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。安全対策につきましては、救急対応でありますとか、不審者対応等につきましては、今までも対策マニュアル等作って対応しておりましたが、先ほど条例の改正に関わる部分ではございますが、それを国のほうが今回は総合的な安全計画を策定しなさいっていうことを示しましたので、送り迎えのマイクロバス等の安全面も含めてでございますけれども、これを来年度努力義務化しまして、1年間で整備をさせたいというふうに思っております。令和6年4月1日からは義務化ということで、総合的に安全対策等を準備した計画を教育委員会のほうで取りまとめまして、指導していきたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。その安全対策についてですけども、これはペーパーレスじゃなくて、もうペーパーで出す安全対策の報告になるんでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。現在も作成しております各児童クラブにおける安全計画は紙ベースで教育委員会のほうに提出をしてもらっております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 紙ベースということになれば、一々その場所に来ないといろんな形でほかの職員の人たちは見えないっていう感じになりますね。そういうあれでいいのかなって、いいんでしょうかっていうことなんです。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。安全マニュアルの活用はやはり現場で勤務をする教職員が共通理解していざというときに活用できるというマニュアルでございますので、マニュアルの写しが教育委員会のほうに集約をされるということでございますが、各児童クラブについては、その内容については職員に周知するような取組は工夫しているというふうに把握しております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 ある意味で、別の形でA Iとか、何か使われるような形のそういう見える化できるような安全対策、例えば子供たちが欠席、出席みたいなのがさっと瞬時に分かるようなそういうシステムみたいなものは考えていらっしゃいますでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。このたび市立保育園等が導入したシステムがそれに当たるのかなというふうには思っておりますが、現在のところこの放課後児童クラブにつきましてはそのような見える化のできるようなシステムを入れる予定は考えてはございません。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 国のほうがそれこそ安全対策のことは一生懸命言っているわけですから、何かあったときに大変なわけじゃないですか。そういう意味でももうちょっと前向きな形で検討していただけたらなと思っております。

次のほう質問に入らせてもらってもよろしいでしょうか。ページ数 221 ページの上段、児童生徒支援なんですけども、正直ものすごい難しくなってきましたけど、不登校がすごいですよね。その不登校対策に対してのこれだとは思いますが、この何か子供たちが自殺が増えたり、不登校が増えたりすることの問題行動、これも教育委員会としてはどこまで把握しているのかっていうことちょっとお聞きしようと思ひまして。

◆浅野博文分科会長 はい、安田センター所長。

○安田直人総合教育センター所長 総合教育センター安田でございます。議員さんおっしゃるように不登校問題、問題行動、年々これが増えてきているという状況でございます。本市においても不登校、問題行動ともに増えておりますけれども、それに対しましては、それぞれの委員会をもってそこで市のほうの方針等を諮問しているというような取組をしております。不登校のほうの児童生徒についてですけれども、直近は2月の分が集計できておりまして、小学校におきましては182名の不登校、それから中学校では294名という数になってございます。問題行動につきましては、ちょっと今、手元資料確認をいたしますので少し時間をいただければと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 何か驚くべき数字のような気がするんです。これが通常の数字になりつつあるのでしょうか。不登校の場合だけでいいです。

◆浅野博文分科会長 はい、安田センター所長。

○安田直人総合教育センター所長 不登校のこの数のことについて、これがこういった数字が標準的などといいますか、なっているかということでございますけれども、確かにこの数字は増えてきているということがございますが、そもそものところで不登校の定義としますのが、年間の出席の日数が30日を超えるというところがございます。続けて30日を超えてそれが継続しているお子さんもおられますし、30日にはなったけれども、その後様々な支援を経て学校でありますとか、市のほうのサポートルームでありますとか、あるいは学校内の相談室、保健室等へ通って支援を受けていると、中には教室のほうに復帰をして授業を受けているというお子さんも多くおるという状況で、1年間のトータル30日を超えた数が累計としてこの数だということがございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 不登校について、私、すごい体験しているのが、小学校、中学校と不登校だった子が最後は通信教育受けてデザインやっていて、今もう自立してるんですよ、完全に。その自立先は中国上海なんです。本当に彼女の努力っていうか、本当に、だから不登校不登校といっても一律じゃないということです。それでもう1人の彼女の場合は、ずっと不登校だったんだけど、こないだ私の選挙で助けてくれました。もうそういうような経緯もあったりとか

いろいろ、その子はやっぱりパソコンができるからどんどんどんそっちのほうにいくとか、だから、この不登校の生徒の教育支援も学校の支援じゃなくてもそういう身近なところでの支援を取り上げていければ、もう結構皆さん才能を発揮すると思います。何か私、不登校が完全に駄目と言い切らない部分がありますんで、その辺のところをもう少し支援をしていただけたらなと思っております。私の質問以上で終わります。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。すみません。事業別概要書 239 ページ下段、市民体育祭開催費についてです。令和4年度は、私は、地区のゲートボールの代表で参加させてもらったんですけども、その種目についてはなかなか参加者を募るのが難しかったり、練習場も城北地区の体育館裏のクレーのところであったり、重箱公園のクレーのところであったりと練習場所も限られてきていて、今グラウンドゴルフが主になってきているので、芝生のところが多くはなってきたりというのがあるんですが、それに比べてコロナ禍でボッチャっていう競技がすごく浸透して各地区でもセットを買ったっていう声はたくさん聞いていまして、そうなってくると、もはやボッチャはニュースポーツの枠をはみ出して浸透しつつあるのかなといった体感があります。今年も21種目で考えられるんですけども、体育館も新設されるということで、屋内競技、参加種目増やしたり、減らしたりというようなことを検討される予定はあるのかどうかお尋ねします。

◆浅野博文分科会長 はい、須崎課長。

○須崎ひとみ生涯学習・スポーツ課長 生涯学習・スポーツ課須崎でございます。競技種目につきましては、体育協会の会議等にかかけまして、毎年市民体育祭の開催種目であるとかっていうことを協議はしておりますので、なかなか出場が難しいような競技もありまして、得点の種目ではなくて、オープン種目のほうにしたほうがいいのではないかとかっていうようなこともあったりしますので、そういった競技の中で、またそういったボッチャですとかっていうようなことで新しい種目をという意見があれば、また検討をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 お答えいただきました。すみません。そうしましたら、せっかく教育長がおられるのでちょっとお尋ねしたいんですけども、先ほど仁風閣のこの関連で吉野委員や石田委員からも質疑が出たところなんですけども、やはり物自体は文化財と、ただ、鳥取市の方向としてはあの周辺はもう観光地で行くと。これから万博もあつたり、いろんな形があつて、その広報、発信したほうがいいじゃないかっていうごもっともな意見なんですけども、文化財課さんっていうのは、技師さんが中心で、城跡の保存であつたり、ほかのことにもかかっている中でその広報のところまでやはり手が回らないというか、それこそ市政広報費には単年度の予算でも5,600万もついていて、その発信する部署っていうのは市庁舎内にもないわけではないので、そういったところで当然連携というんですか、取りまとめっていうのが本当に文化財課であるべきなのか、観光ということであれば本当に経済観光部になっていくとは思いますが、教育委員会としても任せるとするか、どのように関わっていくのがあるべき姿かとお

考えなのか、ちょっとお尋ねします。

◆浅野博文分科会長 尾室教育長。

○尾室高志教育長 ありがとうございます。今、加嶋委員さんが言われた、県は文化・観光と一緒にあったセクションで行政運営をしとられるということで、本市の場合は、先日の市長答弁でスポーツの関係もありましたが、そういった1つのセクションに組織改編するのではなくて、しっかりと連携を取りながら、今言われたような、せつかくの市の財産でありますので、それは市を挙げてPRしていこうと、活用していこうというふうに考えております。あわせて、あそこの施設は指定管理で文化財団に管理運営していただいています。文化財団さんのほうでも京阪神の旅行者とタグを組みまして向こうから団体客を誘致したりするというようなこともこれまでやってまいりました。ただ、このコロナ禍のことで、それとこのたび新たに改修を始めるということで、その辺が若干弱くなるということもありますけども、先ほど石田委員さんから言われた、改修中の中をどのように上手にPRして見せるかということと併せて、中に入れないということもありますので、今、検討中なんですけども、外のほうにそれを紹介できるようなブースといいますか、小さな展示場みたいなものをこさえてしっかりとそこはフォローしていきたいというふうに考えております。これは今後の観光部局とか、それからまた、行財政改革とかと議論しながらそこは進めてまいりたいというふうに思っています。ありがとうございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 お答えいただきました。仁風閣のらせん階段というのは、支柱がない木造のもので日本国内でも、もう数えるほどしかなくて、世界でも同じようなことだそうです。なので、本当に貴重な資源になっていくと思うので、各課が連携して取り組んでいただきたいと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますでしょうか。はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 金田です。239ページの上にも下にもなんですけどもが、ねりんピックは、来年10月秋にたしか鳥取で開催の予定だったと思うんですけどもが、その辺りはどういう形での関わりになってくるのかっていうのを予算に計上されていないから多分出てないんだろうと思うんですけども、ちょっとその辺り関連を教えてくださいなと思いますけども、

◆浅野博文分科会長 はい、須崎課長。

○須崎ひとみ生涯学習・スポーツ課長 生涯学習・スポーツ課須崎でございます。ねりんピック、第36回の全国健康福祉祭ですけれども、令和6年10月19日から22日まで開催される予定になっております。こちらのほうは事務局のほう、高齢社会課が持っておりまして、そちらのほうで予算組みがされていると思います。それで、スポーツにつきましては、テニス、それからサッカー、ゲートボール、ボーリング、太極拳というのが鳥取市開催というふうになっておりますので、うちの職員も関わりながら会議のほうにも入りながら進めていっているものですが、予算組みのほうは高齢社会課のほうが行っております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。かなり幅広でね、多分全県挙げての取組にな

るんだろうと思います。何か神奈川県大会見てみたら、すごい幅広い、こんなことまでやるのみたいな、なったもんですから、分かりました。よろしくまた、教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますでしょうか。はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 一般質問では大変お世話になりました。支援学級への予算もつけていただきまして、ぜひとも子供らがね、本当に安心して生活できるような学校をつくっていただけたらなというふうに思っております。それで224ページの上段に、医療的ケアの看護師派遣事業費っていうのが来年度330万組んであるんですけども、これ実績を見ると、令和2年度、3年度、4年度、実績なしっていう形になっとなるんですけども、ちょっとこの実績の中身の問題と、それから来年度330万組んであるっていうの中身を教えていただければと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。この医療的ケア児の事業でございますが、主に想定するのが導尿とかの医療行為が養護教諭等はできませんので、看護師等派遣して対応していくということを想定して立てている事業ではございますが、今までの利用実績はございません。そういう子供がいなかったかというのとあります。おりますが、保護者さんがその時間に来て導尿の処理をして帰っていくというようなことで対応できているというケースがありましたので、この事業で看護師を派遣するというような実績がなかったということでございますが、このたび、新1年生で1名、導尿が必要な子供が小学校に入学するということが想定されておりますので、それでの事業で初めてここを活用することになるというふうに思っております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。僕の僅かな経験の中にも、かつて子供のお化けが怖いっていうのでトイレに行けなくて、結局、膀胱炎を患っちゃってしましましてね、導尿で出さんとあかんというのでね、お母さんがやられたり、本人が、ちょっと年がたつと自分で結局やれるようになったんですけどもね、そんなお子さんもおられたもんですからね。分かりました。ありがとうございます。

それから221ページ、魅力と徹底の学力向上推進事業費が計上されてますけども、これが前年度1,600万組まれていて、4年度が1,600万、それから5年度が700万ということで半額になってるんです。これは、まず、最初に半額になった理由を教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。この魅力と徹底の学力推進事業につきましては、学力調査、鳥取市または鳥取県が独自に行っている学力調査に関わる費用が大きな部分を占めておりました。このたび県の動向の情報がありまして、中学校の県の学力調査を今までは中1、中2だけだったのを中3までやるということで、県の事業が広がったということで、鳥取市が単独で行う部分というのは必要がないというところもございましたが、また、英語の調査も県が行うということで、検討の中で中学校のこの学力調査を再度検討はしたのですが、入試前にしっかりやっばり鳥取市としても小学校の学力調査をやりたいということで、鳥取市の学力調査を維持しております。

ただ一方で、小学校につきまして、この小学校の学力調査、県もやっておりますけれども、2年生と3年生を鳥取市が学力調査をしていました。これはなぜかといいますと、鳥取県が4年生以上の学力調査を行っていたから、その部分、該当じゃない2年生、3年生の学力調査をしていましたが、学校の現場をこう見る中で、各学校がそれぞれ標準学力検査というものしているという実態が見えてきましたので、これはもう学校に委ねて、県の学力調査で小学校4年生から中3までをしっかりと見ていこうということで、学力調査に関わる費用を大きく削減したということが減額の大きな理由となっております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ということは、この下から3行目のところ、小学校、義務教育学校の2、3年生の本テストというのはなくなったということですね。ということでもいいですか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。今、金田副委員長がおっしゃったとおりでございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 よろしいですか。この学力テストが多分三、四年前から始まったんですかね、確か。スタートに当たって何か一般質問したような覚えがありまして、4年ほどやられて、成果はどのように感じておられますか。

◆浅野博文分科会長 はい、安本次長。

○安本雅紀次長兼学校教育課長 学校教育課安本でございます。鳥取市と鳥取県が行っております学力調査と全国学力学習状況調査を往還しながら、学力の状況を鳥取市教育委員会としては見ております。全国学力学習状況調査につきましては、本年度の結果はかなり全国平均または全国平均を超えるところまでV字回復してきているというふうには思っておりますが、この鳥取市学力調査、県の学力調査の中で課題として見えるのは、やはり中学校の英語の学力が少し全国平均より下回っているというところが読み込めてきましたので、本年度当初予算でも説明させていただきましたけれども、来年度事業の中で英語のアプローチを少し深めていくような取組を描いているところでございます。小学校につきましてはかなり順調に学力のほうは伸びているというふうに思っております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。一喜一憂するような話ではないんですけども、全体的な、全国との学習力の違いを見るのには1つの指針にはなるんだろうと思いますけども、手元に令和3年度のときの概要結果というのがあるんですけども、やっぱり物事柔軟に考えたりというようなあたりが、それから理論的に考えたりというのが少しなかなか大変なのかなというふうな思いも見させてもらいますんで、あまり負荷にならないようお願いしたいというふうに思います。

◆浅野博文分科会長 はい、安田センター所長。

○安田直人総合教育センター所長 総合教育センター安田でございます。先ほど米村委員さんのほうからお尋ねがありまして、保留にさせていただいた件が1点ございます。先ほど不登校の

概要についてはお話をさせていただきましたけれども、問題行動のことにつきまして、これは毎年文部科学省のほうで調査をしまして、県のほうが毎月それに準じた調査が行われて、これ市町を通して調査を行っています。年間を通してまとめたものなんですけれども、この問題行動調査というの中身が、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損害、恐喝、盗み、喫煙、飲酒、深夜徘徊、無断外泊、家出、その他と、こういった項目にわたって毎月調査を学校のほうから上げていますけれども、この中で多いのが暴力行為でございます。特に小学校の低学年におきまして、子供同士がどうしてもその発達段階においてちょっかいをかけるというようなところから、それがけんかに発展してしまったりというようなことが多ございまして、鳥取市の場合には、そういった子供同士のちょっかいということについても、教員のほうが丁寧に見て対応を早期にしていこうというようなことから、積極的に把握をするということをしてございます。その結果、暴力行為ということが数としては一番多ございまして、年間でまとめた分は令和2年度の分になりますけれども、小学校のほうでこの暴力行為が229人、その他も含めまして360人ということで問題行動でございますし、中学校のほうでは、暴力の数、絶対数は減るんですけれども、121人が暴力行為と。その他としまして、中学生になると今度は喫煙でありますとか、飲酒、深夜徘徊ということが若干出てまいりまして、合計は187名、学校の問題行動ということで上がっております。いずれにつきましても学校のほうで早期に認知いたしまして、早期に支援、指導を行っているという状況にございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。はい、そのほかございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 以上で質疑を終結します。執行部の皆様は御退出ください。ありがとうございました。

それでは一旦休憩といたしまして、午後の再開を1時10分からとしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

午後0時4分 休憩

午後1時7分 再開

◆浅野博文分科会長 それでは文教経済分科会を再開します。

まず、最初に吉野委員からよろしく申し上げます。

◆吉野恭介分科員 教育委員会の執行部への問合せの中で、自動採点の削減効果っていうのを尋ねたんですが、その場では、委員会の中では回答がなかったので、先ほど安本次長のほうから電話で回答いただきました。従来の2分の1だと。何時間が何時間ということではなくて2分の1だっていうのを学校からは聞いているということですし、百問繚乱というソフトの中では、業者からの回答です。年間で25時間大体削減になっているということで、中学校の1回のテストで大体4時間ぐらい、6回ぐらい年間あるらしいですけど、大きなテストが。4時間ぐらい削減効果が出てるといような回答でした。また、詳細が分かったらお伝えいただくというこ

とです。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございました。

#### 分科会長報告の取りまとめ

◆浅野博文分科会長 そうしましたら、先ほどの議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分で、教育委員会に関するところですが、分科会長報告に盛り込むべき事項として確認したいと思いますので、まず、事務局より報告をお願いします。はい、橋本さんをお願いします。

○橋本圭司議事係主任 それでは皆様の質疑の内容の確認として申し上げます。

まず、加嶋委員より部活動推進事業費について、コーディネーターに関する規定の有無について質疑がございました。また、人材バンクに教員が登録した場合の勤務形態については勤務時間外での活動になるというような答弁がありました。また、同じく加嶋委員より平日と休日で指導者が替わったりすることがあるということに関して、生徒にとっての方向性の統一ですとか、そういった面の質疑がございました。その後、吉野委員より休日、平日の練習場所の関係ですとか、費用的な支援に関する部分の質疑がございました。同じく吉野委員より取組については拠点校を決めて取り組むのか、またこの事業費に関する取組なのかというところで、各校で準備を進めていくというような答弁があったところです。また、同じくコーディネーターの配置については、統括コーディネーターはすぐにも、学校コーディネーターは年度内に順次というような答弁があったところです。同じ事業で、米村委員より小学校のスポーツ活動に関する質疑があったところです。その後、金田副委員長よりその他の部活動推進モデル事業ですとか、地域学校協働活動推進事業費との関係についての質疑がございました。

その後、石田委員より学校働き方推進事業費のデジタル採点システムに関する質疑がございまして、これについては、先ほど御紹介がありました吉野委員より削減時間に関する質疑がございました。また、金田副委員長より採点方向についてどういった仕組みなのかというような質疑がございました。

その後、石田委員より仁風閣の保存整備事業費について、修繕の様子を公開するようなことはできるのかどうか、また、埋蔵文化財調査費についてはどういった新規事業なのかというような質疑がございました。同じく仁風閣について、吉野委員より動画公開などの検討があればというような質疑がございまして、その後、石田委員より、また同じく経済観光部との連携についての御意見ございました。

その後、図書購入費のうち、電子図書の導入に関する質疑がございました。

その後、岡田委員より学校安全推進事業費の取組についての質疑がございまして、その後、米村委員より放課後児童対策事業費、そのクラブ数や児童数の増に関する質疑、また、安全対策に対する質疑がございまして、マニュアルの作成等の質疑があったところです。それで同じく米村委員より放課後クラブの子供の出欠状況などが分かるようなシステムの導入に関する質疑がございました。

また、続けて米村委員より児童生徒支援事業費、不登校や問題行動に関する件数などの質疑

がございました。

次に、加嶋委員より市民体育祭の開催費について開催種目に関する質疑ございまして、その後、加嶋委員より、また仁風閣にとって、その情報発信について教育委員会としての関わり方はどうするのかというような質疑ございました。

その後、金田副委員長よりねんりんピックに関する部分、また、医療的ケアのための看護師派遣事業費に関する部分の質疑がございました後に、魅力と徹底の学力向上推進事業費の予算額減の理由の質疑がございました。ここまでです。以上です。はい。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。今、主だったところを説明してもらいましたが、皆さんのほうでちょっと御意見がいただけたらと思いますけども、はい、中山委員。何を取りまとめたらいいかという、皆さんの御意見を聞きたいなと思います。はい、じゃあ、吉野委員お願いします。

◆吉野恭介分科員 理由は抜きにして、ちょっと部活動のところ意見がたくさんあったのかなと思いますし、それか加嶋委員の情報の発信のことも含めての仁風閣っていうところはどうか、その2点、どちらかかなと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。岡田委員。

◆岡田信俊分科員 私、部活動かなと思っています。ごめんなさい、ちょっと事業名はあれなんですけど。

◆浅野博文分科会長 はい、分かりました。はい、米村委員。マイク入れてからお願いします。

◆米村京子分科員 部活動でいいと思います、私。今回もすごく皆さん熱心にされてきてます。よろしくをお願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、じゃあ、皆さんに言ってもらいましょうか。じゃあ、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 僕は部活動でいいと思いますね。3年計画でね、これに関しては改革やるんだということで教育委員会も本気になってますんで、その辺ではいいと思いますね。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員どうですか。

◆石田憲太郎分科員 異議なし。

◆浅野博文分科会長 はい、分かりました。はい、加嶋委員どうでしょうか。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。少数意見になると思います。私、岡田委員が言われた学校安全推進事業費で、これ、よう見てなかって、国が10分の10で委託しとるんだけど、その釜石市に行ったときに、奇跡じゃないんだともう、当然とまでは、どういう言われ方したか知らんですけど、やっぱり普段の訓練がきちっと充実してたからその結果につながったというようなこと、すごく今回も聞いていて、ちょっと胸を打たれまして、本当に今日の命がないと明日、明後日って来ないわけですから、改めてこういうのも大事だなって思ったんで、個人の意見としてはこの事業で、岡田委員が言われたようにも、他都市の事例があったようにもきちんと進めていくというなのがいいかなと思いました。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、皆さん、中山委員どうですか。大丈夫ですか。はい、じゃあ、皆さんから御意見いただきましたので、一番多かったのがこの部活動推進事業費に、新しい事業ですけども、これに関してということよろしいですかね。内容のほうは発言のところとかね、事

務局とまた検討しながら、委員長、副委員長に一任ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 はい。ありがとうございます。

そうしましたら、それでは各部の審査が終了しましたので、分科会長報告に盛り込む事項の取りまとめを進めていきたいと思っておりますけれども、各部の案について、教育委員会のほうは今しましたけれども、農林水産部と経済観光部のほうで確認のため、事務局より報告のほう、お願いします。橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 それでは御報告いたします。まず、ちょっと委員長の御指示でお手元に、まだ粗段階ではございますけれども、文案のほうをお配りさせていただいております。こちらを見ていただけたらと思います。まだ、本当に下書きレベルでございますので、参考にとという程度です。

まず、経済観光部がスマート・エネルギー・タウン構想推進事業費、こちら1件でまとめていただいております。農林水産部ですけれども、1件目が農産物販路拡大支援事業費と、もう1つ上げていただきまして、鳥取地どりブランド生産拡大支援事業費補助金の2事業を上げていただいております。それで、先ほど言っていたいただきました教育委員会は部活動推進事業費ということでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。それでは今まだ案の段階ですけども、このスマート・エネルギー・タウン構想推進事業費のこういう、一応案が出ていますけれども、またこれ御覧になっていただいて、また、ちょっとこの文言がちょっと修正したほうがいいのか、そういう意見がありましたら、また教えてもらいたいと思っておりますし、次の農林水産部のほうですけど、2つの事業上げていますけれども、できればどちらかの事業に絞っていただけたらと思っておりますけれども、ちょっとこの文面も参考にしながら、ちょっと御意見をいただけたらと思うんですけども、どうでしょうか。はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。すみません。私が言い出しっぺで2つ並べてもらったんですけど、この農産物販路拡大、このような書きぶりだったらこちらで良いかなと思いましたが。ただ、下から2行目の因幡圏域のところは多分麒麟のまち圏域のことだったんでないかと、この因幡圏域だけだと鳥取県東部というような意味合いになってしまいますので、その辺ちょっと確認されて、文言調整必要かと思いました。すみませんでした。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。（「正副委員長一任」と呼ぶ者あり）はい、そうですか。委員長、副委員長に一任ちゅうことでありますけれども、ちょっと事務局ともね、話をしたんですけど、今の教育委員会のボリュームによっては2つ載せれる可能性はないですかね。ちょっと橋本さんどうですかいね。はい、橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 先ほど上げていただきました部活動の部分はかなり議員の皆さんからたくさん御意見出ておりますので、分量的には結構な分量になるかと思っておりますので、1つに絞っていただきたいかなと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。そうしましたら、やっぱり1つに絞ってということですので、もし、ここで一任ということよりも、皆さんの意見ここでいただいて、ど

ちらかに絞らせてもらえたらと思いますけども、どうでしょうか。多数決でしますか。それとも、皆さんのほうで意見がこれというのがあれば言っていただいても結構ですけども。

◆吉野恭介分科員 地どりを言ったのは私だけだったんで、いいです。

◆浅野博文分科会長 じゃあ、農産物販路拡大支援事業費。いいですか。はい。農産物販路拡大支援事業費でいいという方は手を挙げてもらってもよろしいですか。

〔賛成者挙手〕

◆浅野博文分科会長 はい。皆さん手を挙げていただきましたので全会一致で、じゃあ、こちらの農産物販路拡大支援事業費ということでさせていただきます。

今日の教育委員会の文面も併せて明日の昼から委員長、副委員長と事務局とで文面を検討しまして、明日中にはまた委員の皆さんのほうには案をお届けしたいなと思っておりますので、また、御確認をしていただいて、御意見をいただけたらと思いますのでよろしくお願ひします。

（「これで送るんだね」と呼ぶ者あり）そうです。タブレットで送らせてもらおうと思いますので、確認のほう、お願ひします。

そうしましたら、続きまして予算審査特別委員会の委員長報告に盛り込む事項についてということで、今、各委員会で1つずつ出してもらいましたけども、最終的に1つを選ぶとしたらどれがよろしいでしょうか。御意見ありましたらよろしくお願ひします。スマート・エネルギー・タウン構想推進事業費か、農産物販路拡大支援事業費か、部活動の分ですね、の3つありますけども。はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 過去の少し事務局の用意していただいたの、確認してみると、令和4年が減容化施設管理運営費、令和3年が危険ため池廃止事業費、令和2年が新規就農推進事業費ということで、3年連続農業関係ばかりなんです。ちょっとそうなると、農業しかしとらんのかと言われてもいけませんので、公平性を保つために教育または経済かというふうに思います。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。じゃあ、はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 新規事業でもありますし、自分は部活動がたくさん意見が出たということもあって、それでお願ひしたいと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、岡田委員。

◆岡田信俊分科員 私も部活動です。大きな部活に対しての、初めての大きな改革が始まろうとしているというようなことで、大事な事業だと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか、皆さん。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 じゃあ、教育委員会のほうの部活動の事業で、それで進めていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

以上で予算審査特別委員会文教経済分科会を閉会します。

文教経済委員会に切換え 午後1時25分 閉会

## 文教経済委員会・ 予算審査特別委員会 文教経済分科会 日程

日時：令和5年3月16日（木）10：00～

場所：7階 第2委員会室

**教育委員会** (10：00～)

----- <文教経済委員会> -----

### ◎議案【質疑・討論・採決】

議案第 39 号 鳥取市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

議案第 46 号 鳥取市公民館条例の一部改正について

### ◎請願【質疑・討論・採決】

<新規>

令和5年請願第2号

国による学校給食無償化を求める意見書の提出を求める請願

### ◎報告

新たな学校給食センター整備に伴う建設候補地について

公用車の事故について

----- <予算審査特別委員会 文教経済分科会> -----

### ◎議案【質疑】

議案第 1 号 令和5年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

### ◎分科会長報告の取りまとめ

----- <文教経済委員会> -----

**その他** (教育委員会終了後)

閉会中継続調査申出書（案）について